

医学部学生に適した実践知教育の研究開発

1. 研究の対象

2023-2027年に本学に入学した医学部医学科生。

対照群として2012-2016年に本学に入学した医学部医学科生。

2. 研究目的・方法

医師は、医療を取り巻く多くの課題に対し、主体的に関わり問題解決への糸口を見出すため、医学的スキルに加えて、質の高い『実践知』が求められます。しかし、現在の卒前教育では『実践知』を訓練する機会は極めて限られており、学生個人の活動や課外活動に依存しています。本研究は、「医学部生に対する『実践知』教育が、医療業界にどれほどのインパクトを与えうるか」を問いただします。このため、医学部生が将来医師となった際に、どんな分野に進んだとしても応用可能な『実践知』が習得できるような教育手法を開発することを目的とします。

なお本研究は、（倫理院会承認日）～2028年3月31日までを研究期間として設定しています。

本研究は『実践知』を習得させる医学部卒前教育に関し、

医学部学生に『実践知』をテーマにした授業・実習を展開することで、実際にスキル向上に繋がるのか、また具体的にどのような能力が向上し、どのようなアウトカムに繋がったか、

を解明することを目的とします。

本学医学部医学科生に対して1年次より『実践知』をテーマにした授業を行います。具体的には授業内で、小テーマを設けて授業を実施します。『実践知』の概要をその応用方法とともに、ディベートやグループワークなどのアクティブラーニングの手法を用いて学習します。さらに先行事例を参考に、総合的な『実践知』を養う教育手法（美術教育の対話型鑑賞）も取り入れます。学習効果を図る評価方法としては、まず、授業前後にアンケート調査を行います。授業後に、『実践知』に対する認知度が上がったか、また、授業を通じて具体的にどのような能力が取得出来たかについて研究者が準備した評価表で自己評価してもらう予定です。さらに、何名かの学生に対してフォーカス・グループ・インタビューなどを実施することで、将来、医師になった際にどのように『実践知』が応用できるか、学生自身に考察を深めてもらうとともに、本教育手法の評価・改善を行います。また、『実践知』の長期的学習効果を図るため、この教育を受けていない学生を対照群とし

て、不適切なアウトカムの出現（留年・再試験の数）について評価して比較検討を行います。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

対象者の留年の有無、再試験の数等、本学における教育過程で得られた測定データ（診療情報以外）

アンケート、自己評価表やインタビュー等による情報収集

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて学生もしくは学生の代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも学生に不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先（研究責任者）：

国立高知大学医学部附属 医学教育創造センター 黒江 崇史

〒783-8505 高知県南国市岡豊町小蓮

TEL 088-880-2291

FAX 088-880-2276